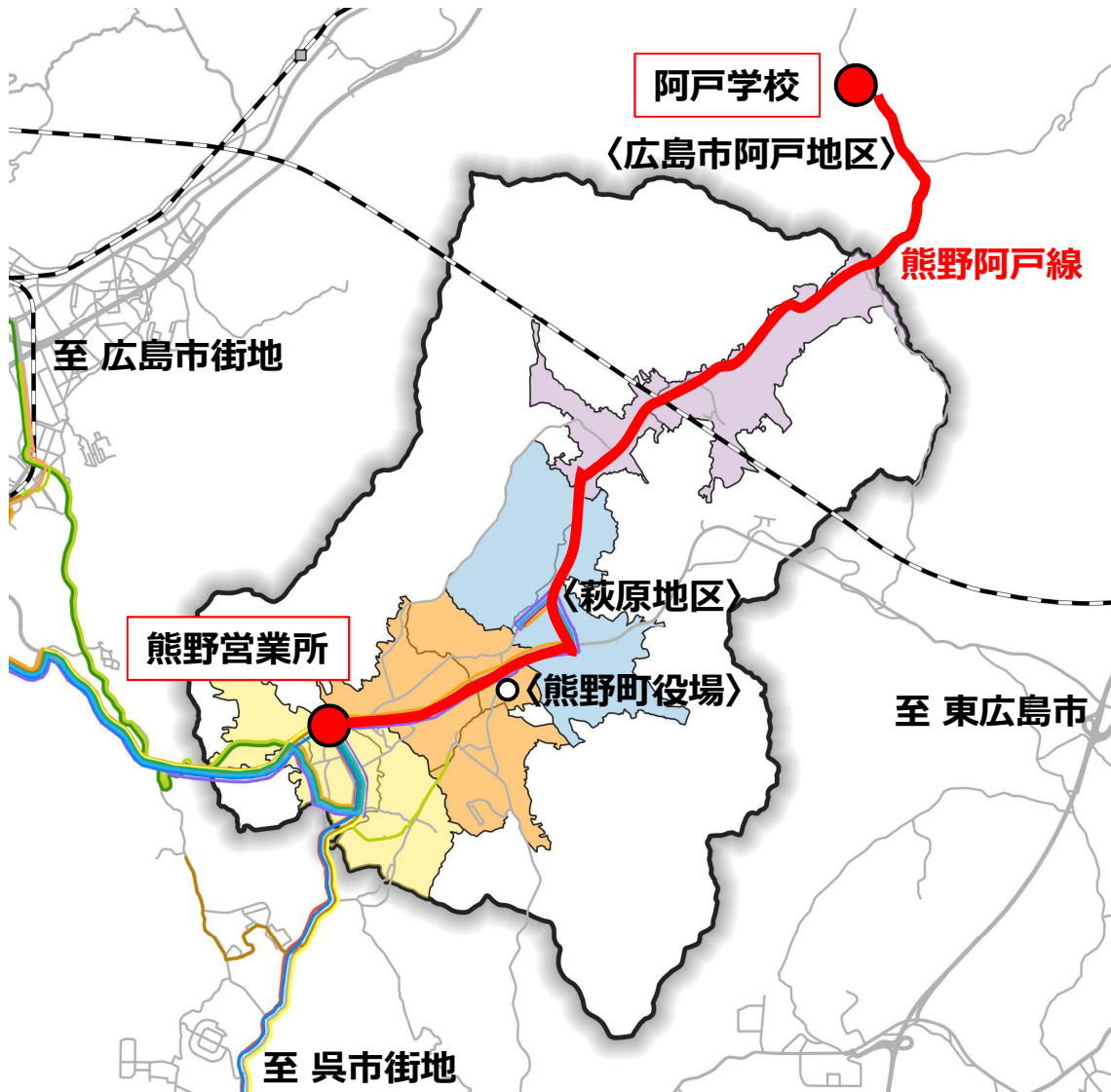


国土交通省
共創モデル実証プロジェクト
(熊野町地域交通共創事業)

～熊野町 地域に新たな価値を生む共創プラットフォーム～

【熊野阿戸線】

- 熊野町の公共交通拠点となっている“熊野営業所”から“広島市阿戸地区”を結ぶバス路線
- 年々利用者が減少する中で、コロナ禍の煽りを受け、生活スタイルに合ったモビリティへの転換が必要



熊野町・広島市・広島電鉄・呉高専
による勉強会

住民の移動実態やニーズ把握のための
アンケート調査

朝夕：熊野営業所・広島市街地へのニーズ
日中：萩原地区への買い物・通院ニーズ

生活スタイルに合った運行形態への
切り替え

生活サービス事業者や住民との
“共創”によるニーズの掘り起こし

【運行切り替えの概要】

- 日中便を小型化し、『阿戸～萩原下（病院群）～フジ熊野店』を運行（朝夕はこれまで通りの大型車両）
- フジ熊野店に乗り入れることでバスでの買い物の利便性が向上（←車両の小型化により実現）

■ 運行ルート



■ 出発式R4.10.1



【共創の取組】

- 人の流れを作り出し、移動ニーズを有機的に繋げる「モビリティ」と「場」を提供する共創の仕組みづくり

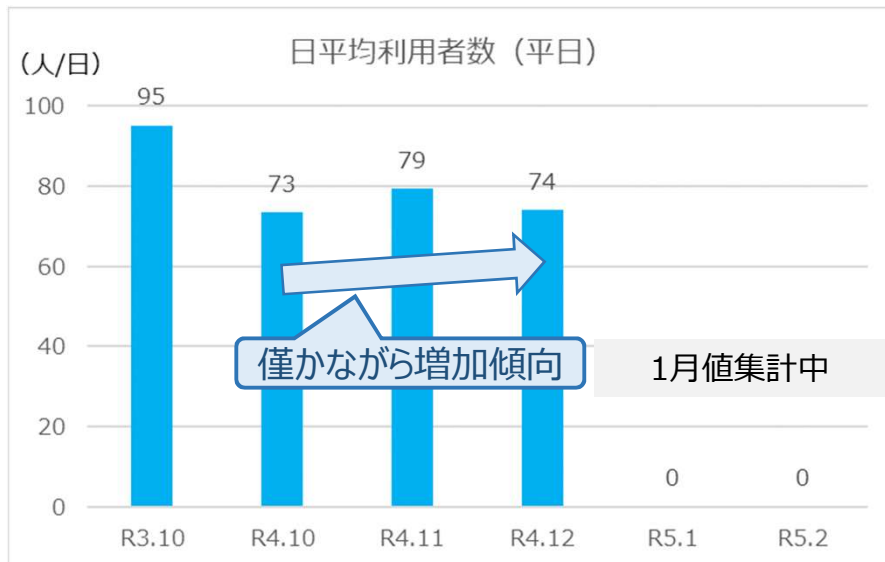


▲ 「モビリティ」と「場」によるサービスイメージ

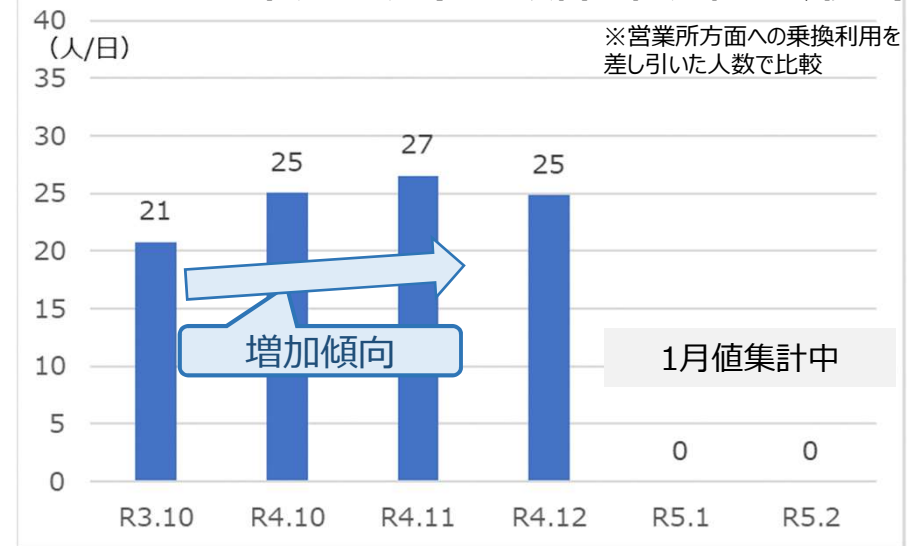
【利用者数の状況】

- 日中便の運行経路を短縮したことで昨年度に比べて利用者数は減少したが、僅かながら増加傾向【図1】
- 日中の生活範囲となっている萩原下～阿戸学校間の人々の利用者数は増加傾向【図2】

■ 図1：日平均利用者数（平日）



■ 図2：萩原下～阿戸学校間で乗って降りる人の日平均利用者数（切替以降の阿戸線内々移動）

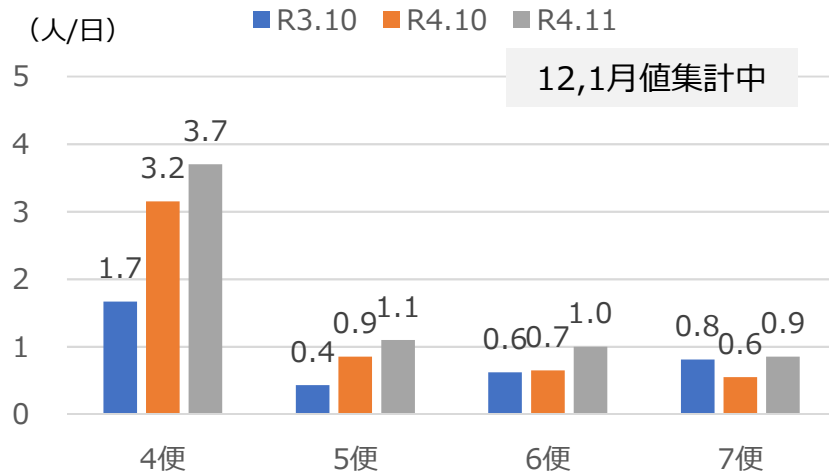


【利用者数の状況】

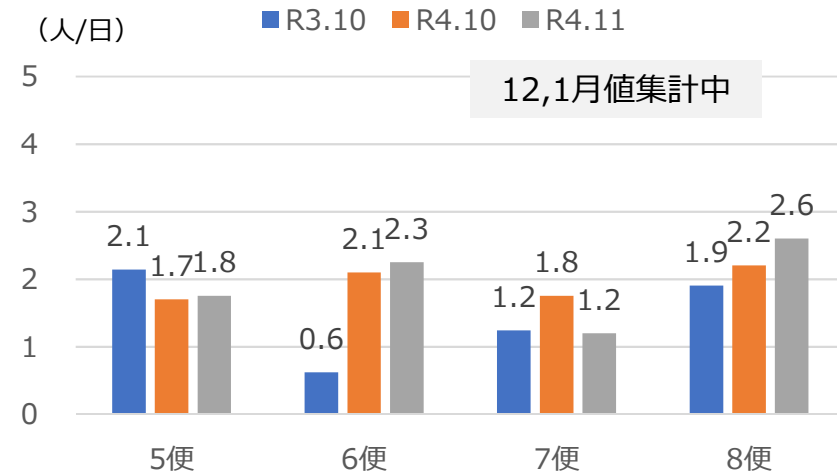
- 日中便は、ほとんどの便で昨年以上の利用があり、特に『フジ熊野店行き』の4便』と『阿戸学校行きの6便』は利用者数の増加が顕著【図5、図6】
- 買い物（行きと帰り）の時間に合わせて時刻表を変更したことで、利便性が向上。
⇒時刻表の変更による効果を検証し、移動したいニーズに合わせて時刻表を変更することや、時刻表に合わせて移動需要を創出する仕掛けを検討していく

■萩原下～阿戸学校間で乗って降りる人の日平均利用者数

【図5：フジ熊野店行き】



【図6：阿戸学校行き】



■これまで（R4.9まで）の時刻表

	阿戸学 校発	消防署 前着		消防署 前発	阿戸学 校着
4便	10:19	⇒	10:30	5便	10:57 ⇒ 11:12
5便	11:19	⇒	11:30	6便	12:27 ⇒ 12:42
6便	12:53	⇒	13:04	7便	13:52 ⇒ 14:07
7便	14:14	⇒	14:25	8便	15:52 ⇒ 16:07

買い物利用に不便

■現在（R4.10以降）の時刻表

	阿戸学 校発	フジ熊野 店着		フジ熊野 店発	阿戸学 校着
4便	10:04	⇒	10:23	5便	10:42 ⇒ 11:01
5便	11:04	⇒	11:23	6便	11:42 ⇒ 12:01
6便	13:04	⇒	13:23	7便	13:42 ⇒ 14:01
7便	14:04	⇒	14:23	8便	15:42 ⇒ 16:01

昼前に帰宅可能

【目的・概要】

- 熊野町を象徴するデザインを車両に施すことで、バス利用者以外の住民への訴求効果を期待する。
- 熊野高校芸術類型美術コースの生徒がデザインを考案し、11/9から新しい車両で運行を開始。

■デザインのコンセプト

- ・ 車両全体は、熊野町の鳥である「鶯」をイメージしたうぐいす色
- ・ 側面には、町の木・花である「梅」と町の象徴である「筆」をデザイン

■芸術類型美術コース

- ・ 熊野高校は県内唯一の芸術類型を設置
- ・ コンクールでは毎年多くの受賞者を輩出し、高い実績を誇る



▲ラッピング車両



▲熊高生に感謝状を贈呈
(贈呈式11/10)

【利用者の声】

- ・ 遠くからでも走ってくるのが分かりやすい
- ・ シンボリックで愛着がわく

【目的・概要】

外出動機となる店舗・イベント情報や、外出の際の移動を支援するモビリティの情報を発信することで、バス利用者のみならず、店舗等の利用者を増やし、外出を促進することで地域活性化につなげる。

また、モビリティと店舗、住民が連携した取組の情報を発信することで、それぞれの主体性の高める。

○配布地区

阿戸(約950世帯)、新宮(約580世帯)、初神(約360世帯)、城之堀(約1200世帯)、萩原(約1400世帯)

阿戸線 だより 10月号 2022
熊野町地域交通共創事業実行委員会
事務局 熊野町生活環境課 820-5606

新しい阿戸線が運行開始
10月1日から阿戸線が生まれ、健康推進課

10月1日から新しい阿戸線の運行が始まり、日中は8人まで乗車できる小型バスで運行しています。
今年1月には、三村町長をはじめとする関係者が出席して、第1便の出発を祝いました。
車両を小型化したことで、フジ熊野店の北側入口前に新たなバス停「フジ熊野店」を設置し、店内にバスの待合所を設置しました。

ベジチェックのご案内
10月12日(水)に開催します!!
手のひらから野菜摂取量を推定します! ぜひ体験してみてください。
「自分の野菜摂取レベルがわかる」「簡単」など大好評の「ベジチェック」。わが町くまの町でも、みんなの食育目標として、「食べよう野菜350g」を掲げ、推進しています。毎食野菜を食べるヒントや、おすすめの野菜レシピもご紹介します。皆様のお越しをお待ちしています。

無料・予約不要
30秒で簡単にチェック!

場所:フジ熊野店
日時:10月12日(水) 10:00~12:00
お問い合わせ: 熊野町健康推進課 820-5637

熊高生が車両をデザイン!
阿戸線の車両(小型バス)のラッピングデザインを熊高生が制作中です。
11月頃にはラッピングした車両が阿戸線を走り始めるので、楽しみにお待ちください!

マイナンバーカードの申請
フジ熊野店(萩原7-5-1)
本人確認書類を持参
会場に来場 本人確認
※運転免許証・パスポート・健康保険証 介護保険証・学生証・母子手帳など(顔写真付きは1点、なしなら2点)
粗品あり!(本会場限定) ※カード受取時に通呈
熊野町マイナンバーコールセンター 082-516-7874

日	月	火	水	木	金	土
9	10	11	12 予約不要	13	14	15
16	17	18	19 予約不要	20	21	22
23	24 要申込	25	26	27 定員10人	28	29
30						

【お問い合わせ先】
ベジチェック:820-5637(熊野町健康推進課)
マイナンバーカード受付、申請:516-7875(熊野町マイナンバーカードコールセンター)
東防災交流センター(東防災交流C):854-4138

阿戸線 だより 12月号 2022
熊野町地域交通共創事業実行委員会
事務局 熊野町生活環境課 820-5606

ラッピング車両で運行 熊高生デザイン
11月9日から阿戸線の車両デザインが変わりました!

10月から新しく運行を始めた阿戸線の車両を「熊高生」がデザインした車両に一新しました。
熊野町の象徴である『筆』と町木・花の『梅』が描かれています。車両全体を町鳥の『うぐいす』色で包んだ明るい車両が、熊野・阿戸の里山を走り抜けます。
この機会に是非ご乗車ください。

買い物カートを貸し出します モニター募集!!
バスでの買い物を便利にするため、買い物カートを無料で貸し出します。
バスに乗って買い物に行くのと、重い荷物を持って帰るのが大変...。そんなお悩みにお応えするため、買い物カートを1ヶ月間無料で貸し出します。
※モニターの方には、期間中にバスを利用したお買い物をお願いしますが、バスを利用しないときもご利用いただけます。
※バス代はご自身のご負担となります。
※期間終了後は簡易なアンケートにご協力ください。

バス待合所 @フジ熊野店
【イベントバス利用者募集中!!】
フジ熊野店のバス待合所で、イベントやワークショップを開催しませんか?
お問い合わせ:熊野町地域交通共創事業実行委員会(生活環境課内 TEL820-5606)

熊野高校芸術類型の生徒に感謝状を贈呈トカレダ

みんなで見てみよう~阿戸線の利用状況

〈阿戸線の利用者数〉
新しく運行を始めた今年10月の利用者数は、昨年10月と同程度の利用がありました。

〈阿戸方面日中便の利用者数〉
11時台の運行をお昼に間に合したことで利用者が増え

平日利用者数(人)
10月: 1,262
11月: 1,165

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

【お問い合わせ先:電話番号】
マイナンバーカード受付、申請:TEL516-7875(熊野町マイナンバーカードコールセンター)
熊野町防災交流センター(東防災交流C):TEL854-4138
けんこう車庫教室(熊野町健康推進課):TEL820-5637

【イベントスペース利用者募集中!!】
フジ熊野店のバス待合所で、イベントやワークショップを開催しませんか?
お問い合わせ:熊野町地域交通共創事業実行委員会(生活環境課内 TEL820-5606)

【目的・概要】

- 買物や移動手段と有機的につながり、新たな人の流れ・外出機会を創出することを目的に、フジ熊野店の空きスペースを活用して、コミュニティスペース機能を有した待合所を提供。
- 1/29（日）に賑わい創出・外出機会の創出を目的に『あとせんマルシェ』を開催。

- ・店内には5店舗が出店（コーヒー、雑貨、バスボムづくりなど）
- ・店外にはキッチンカー2店舗（カレー、ハンバーガー。両店舗とも売り切れ！）
- ・400人を超える来場者！

熊野には出店したい人と
賑わいを求める人が潜んでいた！



▲店内の様子



▲店外の様子



▲小さな子供も楽しむ

【今後の予定】

- 2/26（日）は、バスに“触れる・知る”機会の創出にも着眼して『あとせんマルシェ』を開催。
- 3月以降、バスを“体験する”ことへ発展させる取り組みを検討。



うぐいす色の車両が注目の的に
⇒バスをもっと活かす！

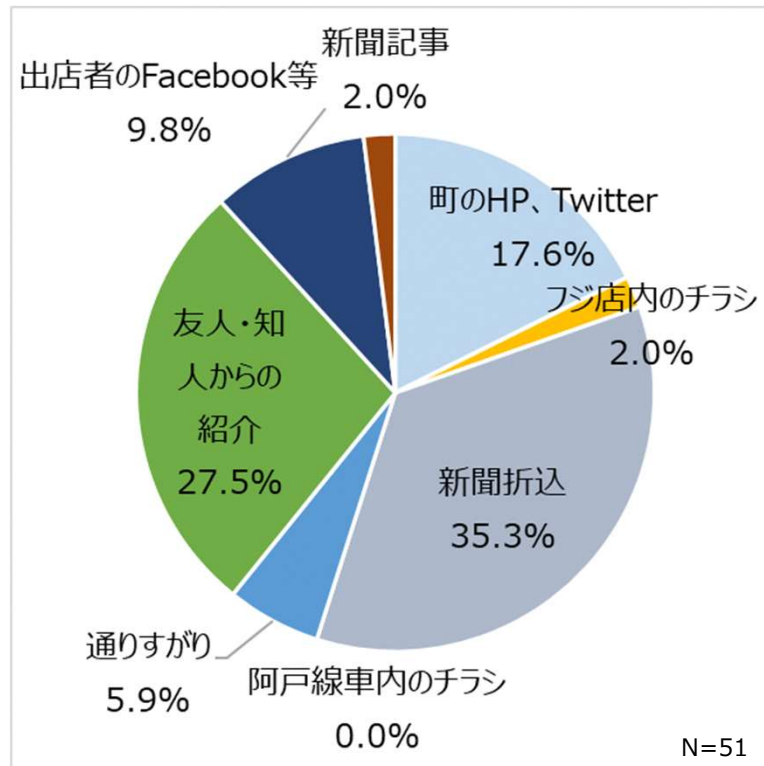


休憩スペースも認知された

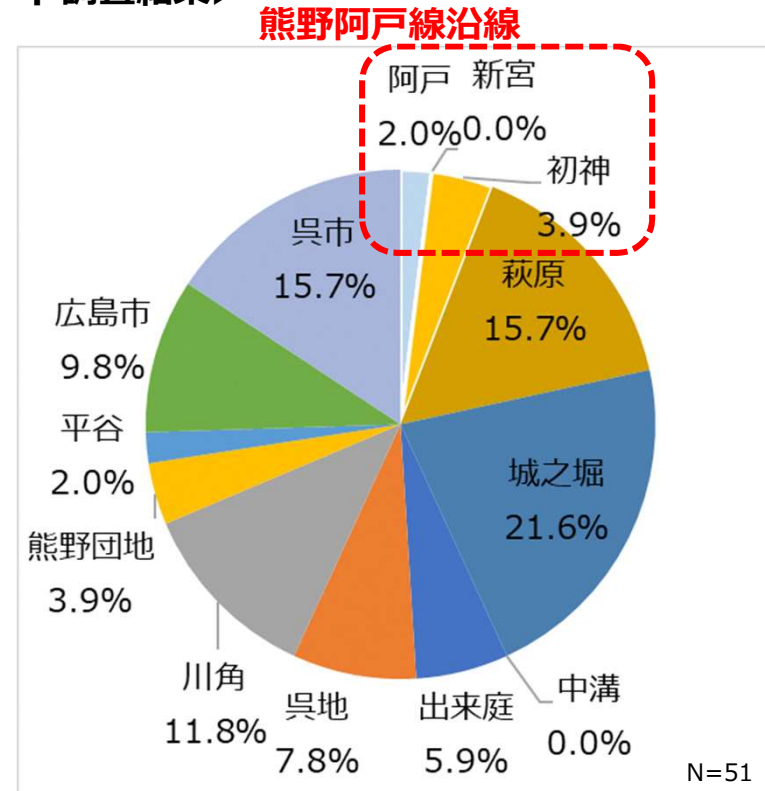
【課題】

- 周知方法：高齢者が多い地区のため、新聞折込が威力を発揮。一方で、車内での周知が来場に繋がらず。
- 来場者居住地：町内から幅広く来場。しかし、熊野阿戸線沿線の地域の来訪が少ない。

<来場者へのアンケート調査結果>



▲どのように知ったか

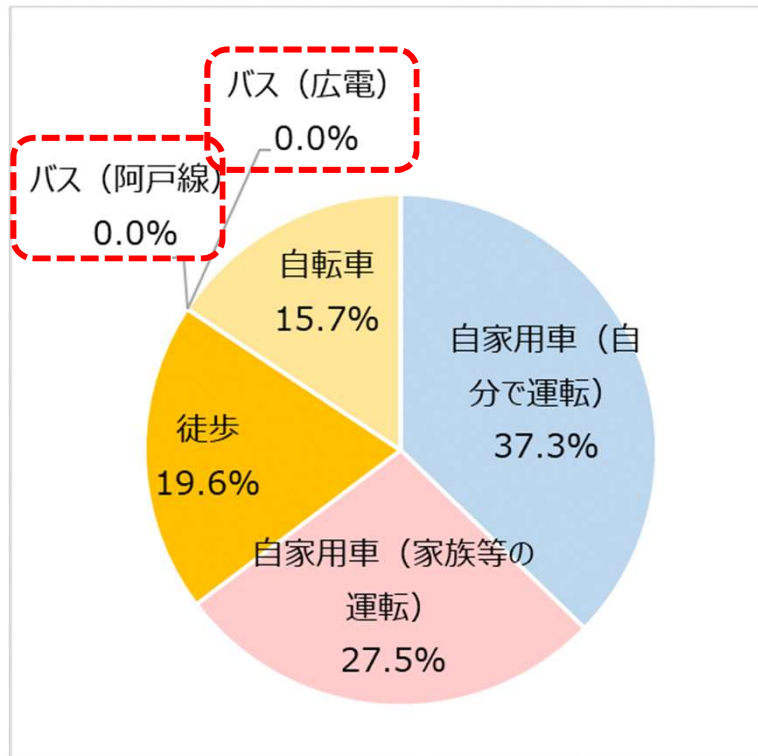


▲居住地

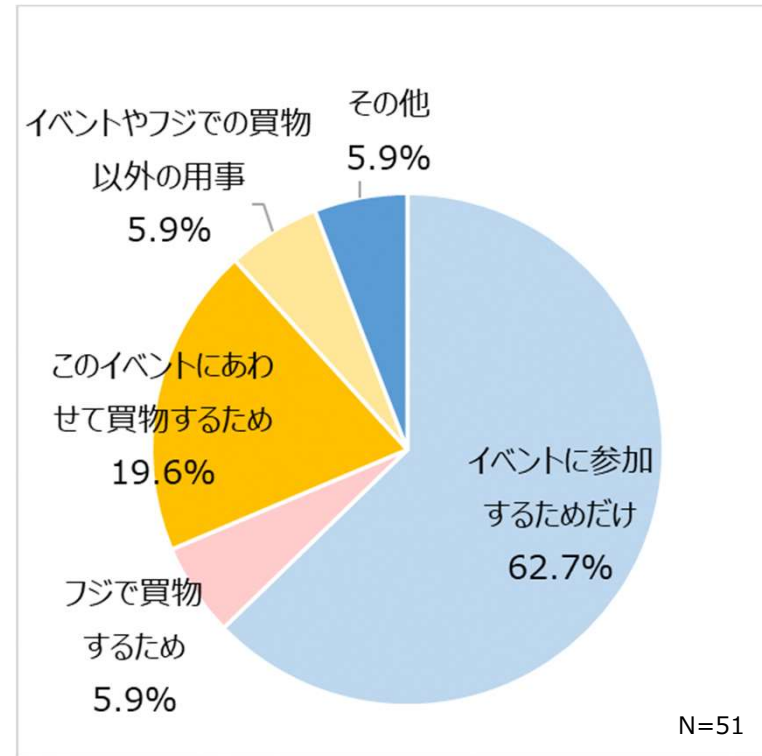
【課題】

- 来場手段：自動車が多いのは想定内。しかし、バスが僅か…。(アンケートでは0人だがバスでの来場を確認)
- 来場目的：外出目的としての役割は果たせた。イベントと買物の組合せの良さも確認。
“ここに来れば何かある”を想起させるための継続性と仕掛け。

＜来場者へのアンケート調査結果＞



▲来場時の移動手段



▲外出目的